

H21_IV 「多様な主体による公園整備・維持管理運営のあり方」に関する調査

調査項目 「多様な主体による公園整備・維持管理運営のあり方」に関する調査

調査年次 平成 21 年度 章番号 [IV]

目的

公園緑地の整備及び維持運営管理において、担当行政による整備・維持運営のみならず、行政内の他部局連携、民間の団体や企業あるいは市民による多様な主体による整備・維持運営を推進していくことは、ニーズに応える整備、積極的に維持運営により公園活用を活かした地域の活性化にもつながる一つのあり方といえる。そこで次の3つの課題について調査を実施し、今後の整備・維持運営の推進のための基礎資料とする。

概要

「民間等の主体による整備・維持運営の推進のための検討」として、事例収集及び各都市へのアンケート調査を実施した。また、「地域固有の歴史資源を活かした公園整備と民間連携の検討」のために、各都市のアンケート調査を実施し、その結果から整理した課題について、どのように対応しているのか、事例ヒアリングを行った。その他、「連携のための許可行為のありかたの検討」として、文献調査及び各都市へのアンケート調査を実施した。

結果

■ 民間等の主体による整備・維持運営の推進のための検討

①事例収集

都市公園でのPFI事業は5件、指定管理者制度では約1,700以上の公園が民間企業によって管理されているが、いずれも行政主導の制度である。

一方、用地寄付は市民の自発的な公園整備への意向と考えられ、平成18年都市公園実態調査データによると、1914年以来、用地寄付だけで用地確保された都市公園は、政令都市で、427公園にのぼる。寄付が増えたのは、1970年代から1980年代で年間15～35件程度。

②各都市アンケート調査

○アンケート項目

- ・用地寄付関連
- ・その他、民間による公園緑地の整備等に係る協力事例

<アンケート調査結果概要>

- ・用地寄付の動機として、「地域貢献」が半数以上を占め、市民や企業の意思がうかがえる。
- ・行政側は、寄付の申し出があつてから、「公園用地にふさわしいかどうか」の判断を行うが、場合によっては寄付する方の好意が無駄になってしまうこともある。
- ・一方、市民や企業に支援して欲しいことがらを明示することで、協力を得られている事例もある。用地寄付等の考えかたなども含め、市民や企業がどう貢献できるのかという切り口を積極的に解説していく必要がある。

■ 地域固有の歴史資源を活かした公園整備と民間連携の検討

①各都市アンケート

○アンケート項目

- ・歴史資源を活用し地域活性化に資する公園運営を行っている事例把握。
- ・歴史資源を生かした運営を行う上での民間との連携

<アンケート調査結果概要>

- ・ボランティアによるガイド、維持管理への協力など市民の協力を得ている事例が多い。地域の自治会等による維持管理を行っているところもある。
- ・管理運営上の課題には、保全の問題や利用と保全のバランス、収支の問題などがあげられた。

②事例ヒアリング

「①資源活性化に向けた住民の内発的な活動」により資源が保全され、「②様々な支援策を活用した予算を確保」して管理運営の努力がされている、「③動態保存(活用と保存の両立)」を行うために、「④市民の協力、地域ぐるみの支援」重要であり、さらにこれらの活動が「⑤地域づくりへ波及」していることがわかった。

調査項目 「多様な主体による公園整備・維持管理運営のあり方」に関する調査

調査年次 平成21年度 章番号〔IV〕

■ 連携のための許可行為のありかたの検討

①文献調査等

- ・各都市の「都市公園条例」「施行規則」、許可行為手続きの市民への公開状況を調べた。
- ・条例で定められた占用料、使用料の各都市比較を行った。

②各都市のアンケート調査

「設置許可」「行為許可」等の現状と課題についてアンケート調査を行った。

<アンケート調査結果概要>

- ・懸案事項となりやすいことがらについて、ケーススタディとして、課題と対応策についてまとめた。また、これらの許可にあたって、各都市が定めている基準を収集し、とりまとめた。
- ・「公園の一般利用を確保し、公園での営業行為を制限すること」と「公園のにぎわいづくりや利便性の向上」のために公園でのイベントやサービスなどにおいて民間連携を推進することのバランスが難しいものの、一方、様々な活用の工夫により柔軟な運営を行っていることがわかった。

■ 公園の意思決定と多様な主体の参画について

これらの様々な工夫については、対症療法的に課題を解決するための具体策であり、それに至る各都市が本来あるべき公園の姿に向けて、「取り組むべきことがらなのか」、それとも「取り組むべきことがらではないのか」といった判断に至る経緯は議論になっていない。つまり、結果（運用の工夫の具体策）だけを見て、参考にするのはなく、それに至る経緯、行政としての判断軸をもつことが重要である。

課題

これまで、「意思決定」について十分な議論がされないまま、事象ごと、公園ごとの対応が蓄積されてきている状況である。それぞれの対応が適切に行われていたとしても、全体としての公園の方向性がいまいになってしまう恐れもある。また、公園間で対応が違った場合、判断基準が明確でないと市民への説明がつきにくい、などの課題もある。

第3回検討会においても、公園の目標を共有するためにパークマネジメントプランの策定を行いたいのが難しい、数千箇所もある公園の目標設定をどうするのかといった議論もあり、今後、行政が「意思決定Ⅰ」を行うための判断軸をつくっていくことが課題である。

調査結果の反映等

キーワード 多様な主体による公園整備、維持管理運営、民間主体、民間連携、PFI事業

事例公園等

■ 地域固有の歴史資源を活かした公園整備と民間連携の検討

○事例ヒアリング

- 兵庫県豊岡市 ⇒ 出石永楽館
- 岩手県遠野市 ⇒ 遠野ふるさと村
- さいたま市 ⇒ 浦和くらしの博物館民家園